

令和2年度 大阪府中学生チャレンジテスト

結果と分析（東大阪市）

令和3年1月13日（水）に実施された「大阪府中学生チャレンジテスト」について、東大阪市の結果及び分析を公表します。

●調査結果について●

本調査で得られる結果は学力の特定の一部であることや、平均正答率のみでは生徒の学力については測ることができないことを踏まえ、本調査から得られたデータをもとに学校・家庭・地域が学力に関する課題を共有し、さらなる連携を深め、生徒の学力向上に取り組むことを目的として分析を行った。

●調査目的●（大阪府教育委員会作成の実施要領より）

- ①大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、大阪府教育委員会は、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- ②市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- ③学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

●調査概要●

実 施 日	令和3年1月13日（水）
実施対象学年	中学校1年生 及び 2年生
実 施 教 科	中学校1年生：国語・数学・英語 中学校2年生：国語・社会・数学・理科・英語
調査実施生徒数	中学校1年生 国語：3395人 数学：3394人 英語：3405人 中学校2年生 国語：3303人 社会A：2441人 社会B：871人 数学：3309人 理科：3314人 英語：3312人

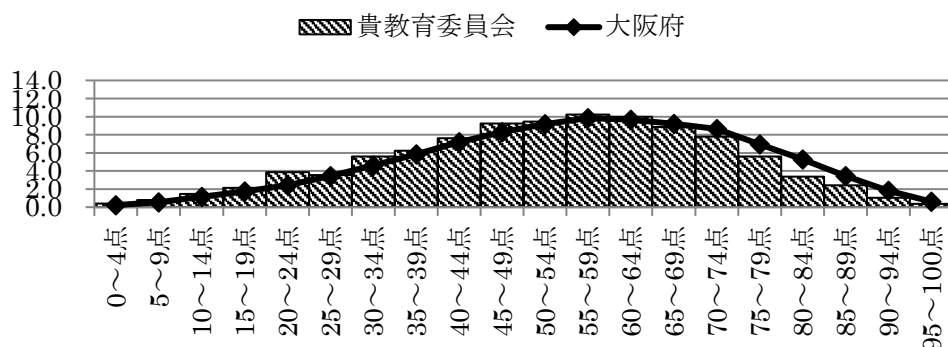
第1学年 国語

■平均得点

53.0 点（東大阪市）

56.1 点（大阪府）

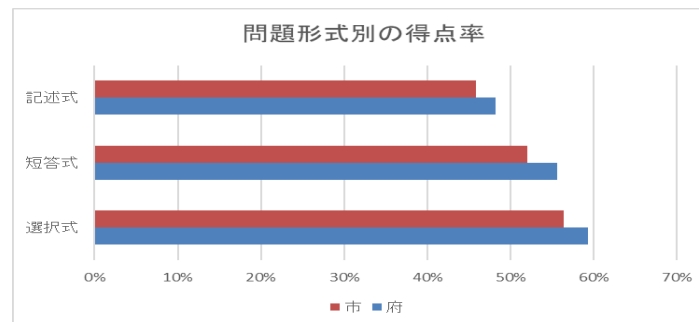
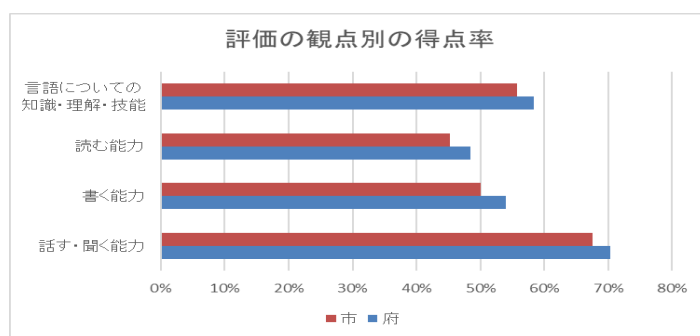
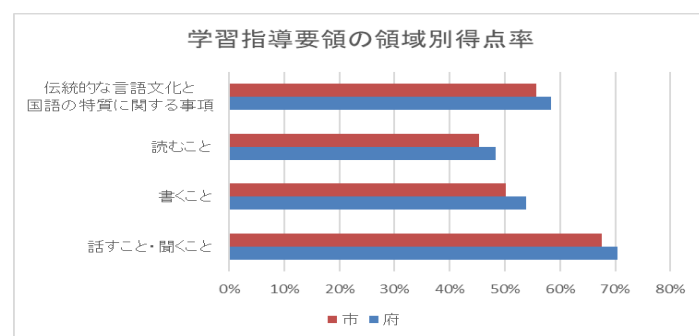
■得点別分布の割合



・分布の割合のピークが 55～59 点で、大阪府と同じような山型になっている。

・大阪府の分布と比較して、特に 75 点～89 点までの間が低い。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率



・学習指導要領の領域別得点率、評価の観点別の得点率では、「読むこと」「読む能力」及び「書くこと」「書く能力」の得点率が低くなっている。

■特徴的な傾向と対策

- ・文脈に即して漢字を正しく書く設問においては、「百年後の未来をヨソクする。」「生存キョウソウが激しい。」は大阪府の正答率よりそれぞれ+0.5%、+0.4%と上回っているが、「消しゴムを友だちにカす。」では正答率が-9.9%と下回っている。学習指導に当たっては、新出漢字を熟語などの繰り返しの練習にとどまらず、自分が書いた文章や本に書かれた叙述を読む中で、文脈に沿った正しい使い方を習得していけるような工夫が求められる。
- ・大問4-1領域「書くこと」の案内文に必要な項目（情報）を理解する設問においては、大阪府の正答率より-10.3%と下回っている。学習指導に当たっては、教材文等を利用して書かれている複数の情報を読み取り、それらをまとめたり言い換えたりして、適切な表現や記述の仕方を考えることができるよう、ICTの活用等による工夫が求められる。

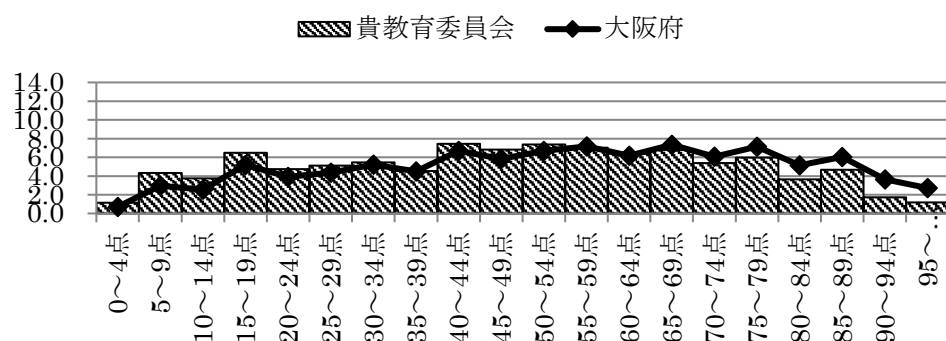
第1学年 数学

■平均得点

48.7 点（東大阪市）

54.0 点（大阪府）

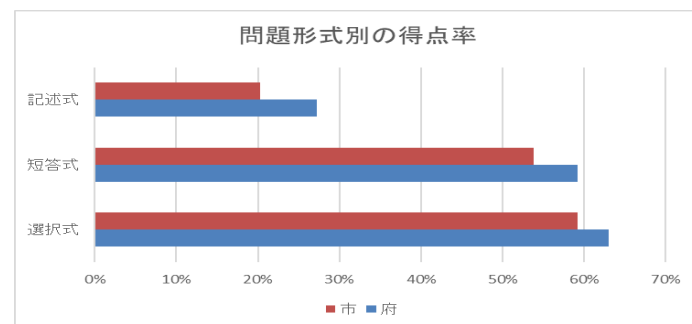
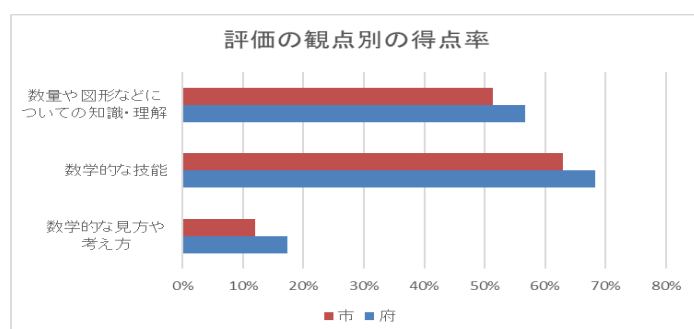
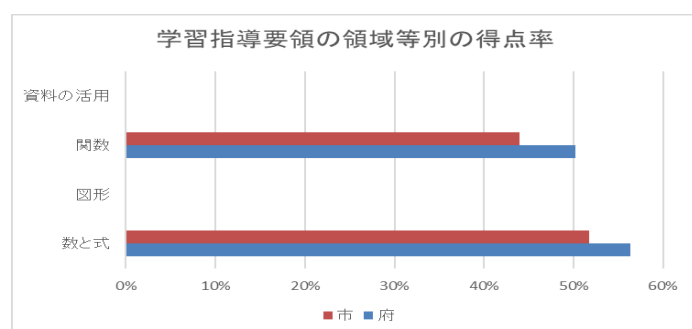
■得点別分布の割合



・府の分布、市の分布ともに全体的に横に平らで得点別分布にバラつきがある。

・府の分布と比較して、70点以上の生徒の割合が少ない。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率



・例年と比較すると、問題形式別の得点率では「記述式」の得点率が10%以上上昇しているものの、依然として課題は大きい。

＊今年度はコロナウイルス感染症により、出題範囲の減少もあり、資料の活用と図形の領域の問題は出題されなかった。

■特徴的な傾向と対策

- ・「買ったプリンの個数を x 個としたときの方程式をつくる」設問は、全設問中で、大阪府との正答率の開きが最も大きく、差は11.5%であった（【市】26.0%【府】37.5%）。方程式をつくって問題を解決するとき、必要な数量に着目した式の意味を理解しているかどうかを問う設問であり、文章問題を解く基礎となる力である。学習指導に当たっては、等式の性質を理解し、正しい文章の読み取りの仕方を確認する活動やタブレット端末を使ったドリル学習を取り入れるなど、確実な定着を図る工夫がより一層求められる。
- ・「円が n 個のときの交点の個数を、 n を使った式で表す」設問の後の、「文字を用いた式をどのように導いたかを具体的に説明する」設問は、全設問中で大阪府との無回答率の開きが大きかった（【市】57.4%【府】51.3%）。学習指導に当たっては、数学的な表現を用いて自分の考えを説明できるように、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、式、表、グラフなどの「用いるもの」とその「用い方」について明らかにした学習活動が有効である。

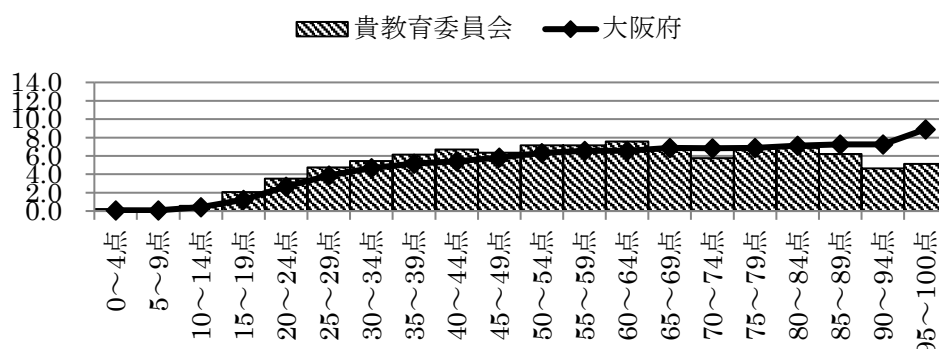
第1学年 英語

■平均得点

59.2点（東大阪市）

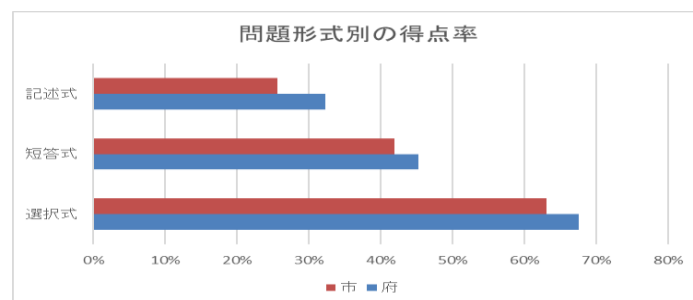
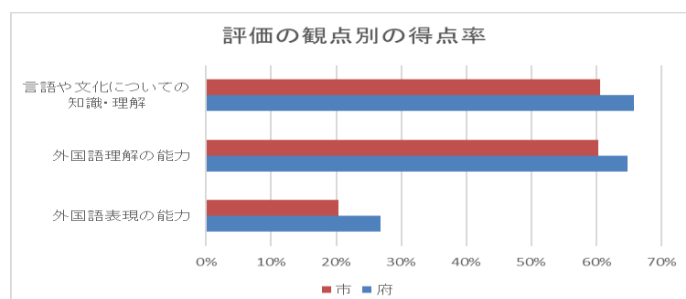
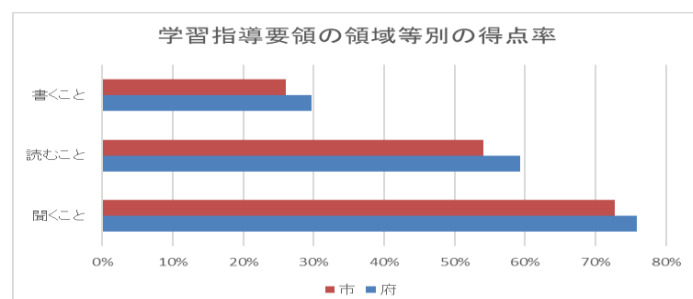
63.8点（大阪府）

■得点別分布の割合



- ・60～64点がピークとなる、なだらかな山型となっている。
- ・大阪府の分布と比較して、70点以上の生徒の分布が少ない。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率



- ・評価の観点別の得点率では、外国語表現の能力の得点率が低く、課題は大きい。
- ・学習指導要領の領域等別の得点率は、書くことの領域において正答率が低くなっている。

■特徴的な傾向と対策

- ・大問8（2）において、大阪府との正答率の開きが最も大きく、差は8.3%であった（【市】23.5%【府】31.8%）。この問題は、手紙文を読み、流れに合う正しい英文を完成させるため（ ）に当てはまる英語を記入する設問である。学習指導に当たっては、現在形における動詞の使い方、疑問文、否定文の作り方の基本的な理解が深まるような工夫が必要である。
- ・大問2の（2）の会話文を聞いて、会話の続きとして適切なものを選択する問題において、正答率の開きが大きく、大阪府との差は7.8%であった。（【市】67.8%【府】75.6%）。学習指導に当たっては、たくさんの音声に触れることで、英語の発音やアクセントに慣れさせ、文章や会話の流れなどから、聞くことの目的をもって、リスニングすることが求められる。また、必要な情報を聞き取る力の育成、語と語の連結による音の変化を捉えて情報を正確に捉える力を育成することや、聞く力だけでなく、聞かれた内容について、自身の立場で表現できる機会を増やすなどして、書く力、話す力の育成につなげていく必要がある。

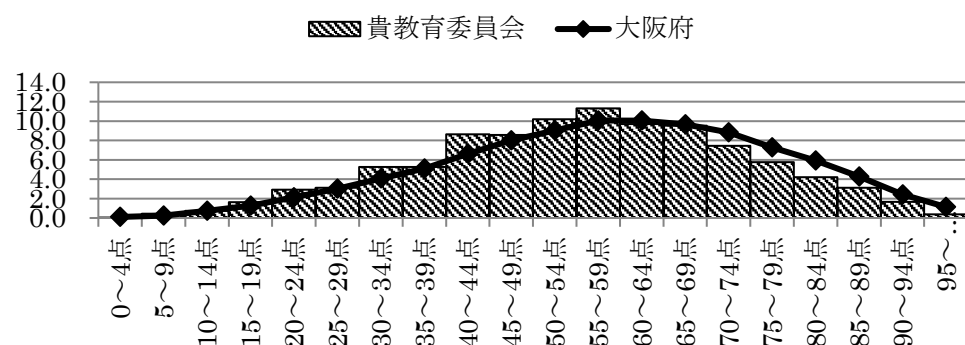
第2学年 国語

■平均得点

55.1 点（東大阪市）

58.3 点（大阪府）

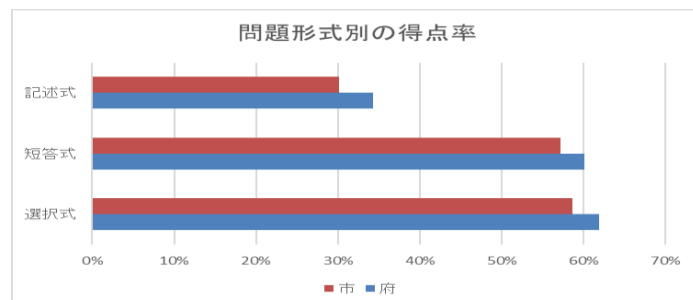
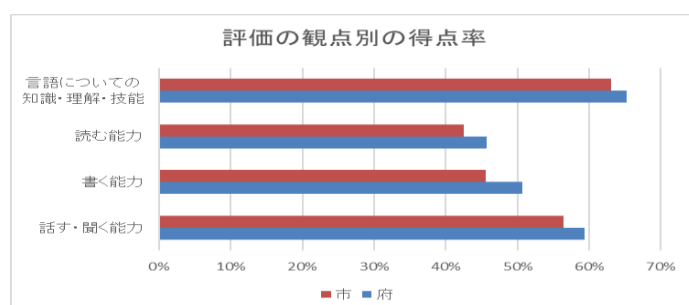
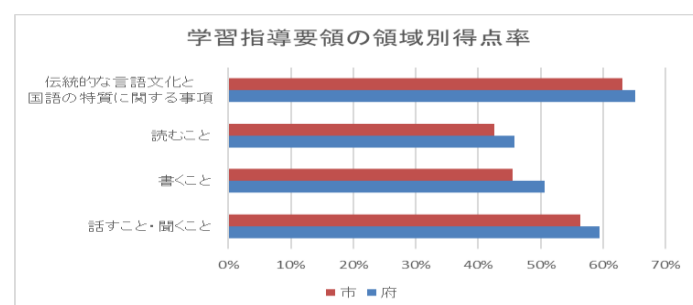
■得点別分布の割合



・分布の割合のピークが 55～59 点で、大阪府と同じような山型になっている。

・大阪府の分布と比較すると、特に 70 点～89 点までの間が低い。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率



・学習指導要領の領域別得点率、評価の観点別の得点率では、「読むこと」「読む能力」及び「書くこと」「書く能力」の得点率が低くなっている。また、問題形式別の得点率は記述式が低い。

■特徴的な傾向と対策

- ・文脈に即して漢字を正しく読む・書く設問において、全 6 問中、5 問大阪府の正答率を下回っている。学習指導に当たっては、文脈に沿って正しい漢字を書くことができるようにすることが大切であることから、単に熟語を反復練習で覚えるのではなく、文脈から同音異義語を選択することができたり、漢字の持つ意味を考えながら正しく使う習慣を付けるなど、生徒の発達段階に応じた指導を工夫することが必要である。
- ・大問 4－2 の手紙の後付けについて理解する選択式の設問では、大阪府の正答率と比較して課題が見られる。学習指導に当たっては、はがきやお礼の手紙の適切な書き方を学習する必要がある。さらに、学んだ知識・技能を実生活において活用できるような見通しを持った工夫した指導をすることが大切である。

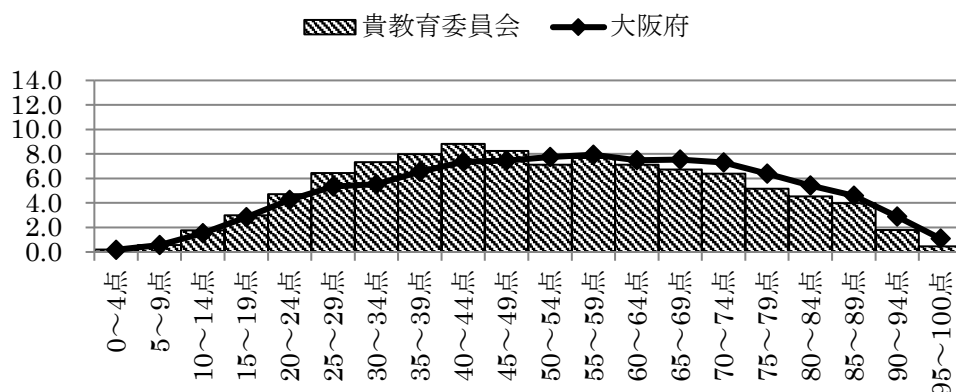
第2学年 社会 A

■平均得点

51.3 点 (東大阪市)

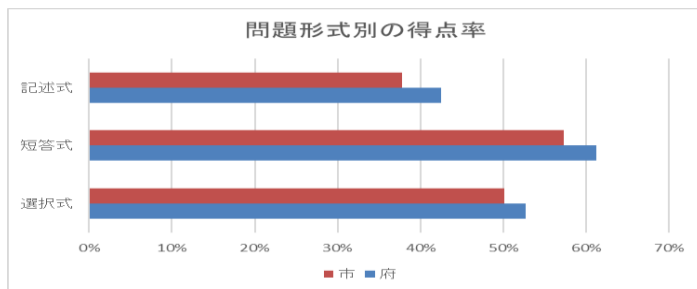
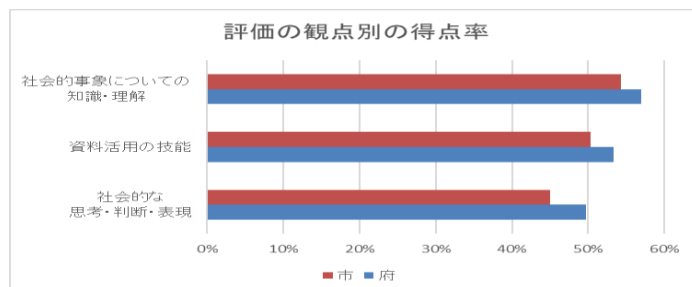
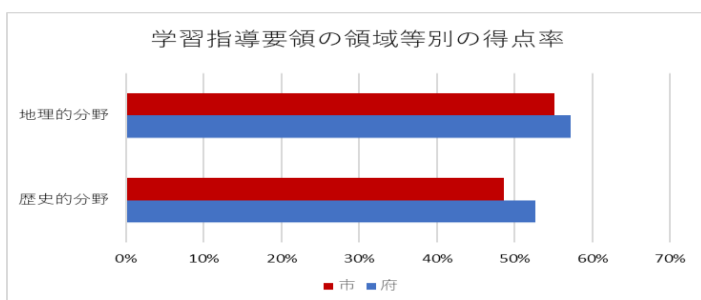
54.5 点 (大阪府)

■得点別分布の割合



- ・40点～44点をピークとするやや左寄りの山型となっている。
- ・大阪府の分布に比べて、65点以上の分布が少なく、20～49点までの分布が多くなっている。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率



- ・学習指導要領の領域等別の得点率において、歴史的分野の得点率が低い。

■特徴的な傾向と対策

- ・学習指導要領の地理的分野において、四大公害病の1つが発生した熊本県の都市名と廃棄物ゼロをめざす取り組みの適切な組み合わせを選ぶ選択式の問題では、大阪府の正答率を上回っている。水俣病とエコタウンについて理解していると考えられる。また、歴史的分野においては、「商品作物」や「寺子屋」、「インカ帝国」「南蛮貿易」等について短答式で答える問題での無回答率が高く、基本的な社会的な事象についての知識・理解の定着が低いことが分かる。学習指導に当たっては、歴史的な事象の背景やストーリーをしっかりと捉え、事象に至るには必然性があることに着目させて、学習することが必要となる。
- ・過疎化に対する取り組みのねらいを考察し、適切に説明する設問が最も正答率が低くなっている。（【市】37.5%・【府】42.9%）また、IC工場の立地について、資料から読み取れる情報を踏まえて考察し、適切に説明する設問の正答率も低い。（【市】38.0%・【府】42.2%）この2つの問題形式は、記述式であり、また無回答率も高いことから、学習指導に当たっては自分の意見や考えを書く、場の設定の工夫が求められる。

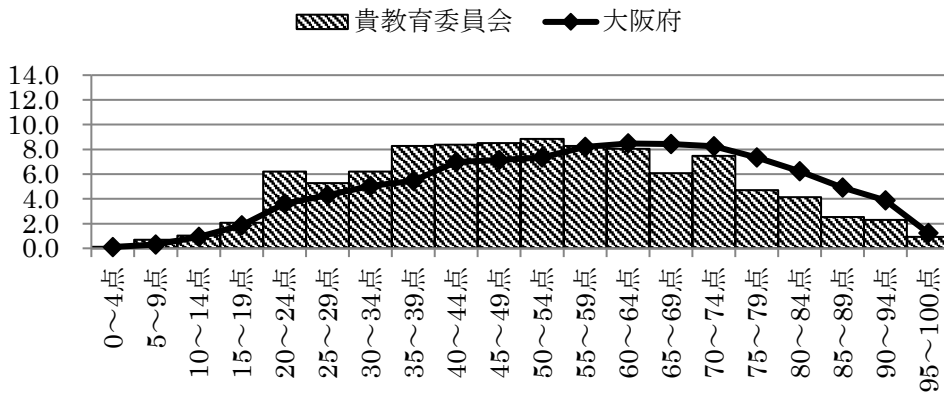
第2学年 社会B

■平均得点

51.8 点（東大阪市）

57.4 点（大阪府）

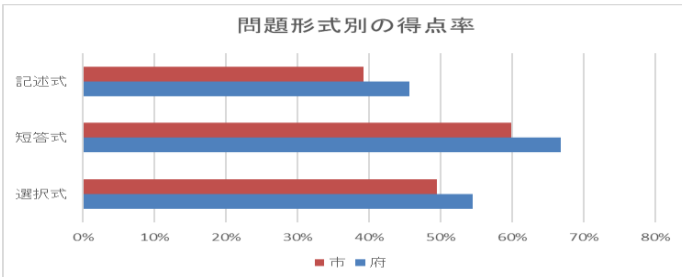
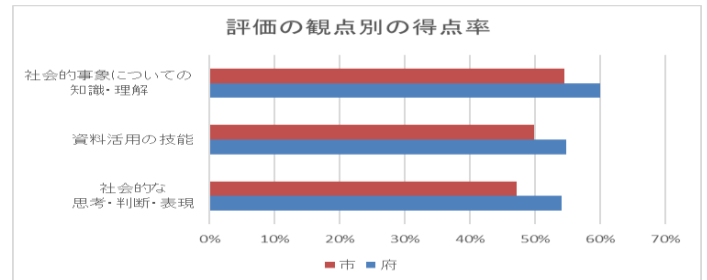
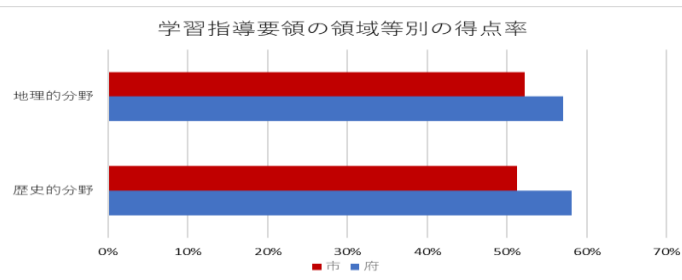
■得点別分布の割合



・おおそ35点から64点をピークとするなだらなか山型になっている。

・府の分布と比較して、65点以上の生徒の割合が少ない。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率



・評価の観点別の得点率では、「社会的な事象についての知識・理解」や「資料活用・技能」と比較すると、「社会的な思考・判断・表現」の得点率が低い。

■特徴的な傾向と対策

- ・農民や町人の子どもたちが実用的な知識や技能を身につけた庶民の教育機関の呼び名を書く設問については、大阪府との正答率の開きが大きく、差は15.6%であった（【市】51.3%・【府】66.9%）正答が「寺子屋」であり、小学校でも学習する内容であり、特段に難易度が高い問題であったとは考えにくい。設問文に「教育機関」と書かれていたので、「寺子屋」と結びつかなかったのではないかと考えられる。学習指導に当たっては、一問一答のように暗記するのではなく、語句を学習する際には、身近な地域の事例と関連させる探究的な活動が求められる。
- ・地形図から読み取れる内容として適切なものを選ぶ設問が、最も正答率が低い設問となっている。（【市】27.8%・【府】33.7%）問題形式が選択式にも関わらずこの正答率になったのは、地形図を普段から見慣れていないことが一因ではないかと考えられる。中学生にとって地形図を読み取らなければならない必然性が日常生活ではほとんどない。学習指導に当たっては、場所の特徴などに着目し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、知識及び技能を身につけていくようにしたい。

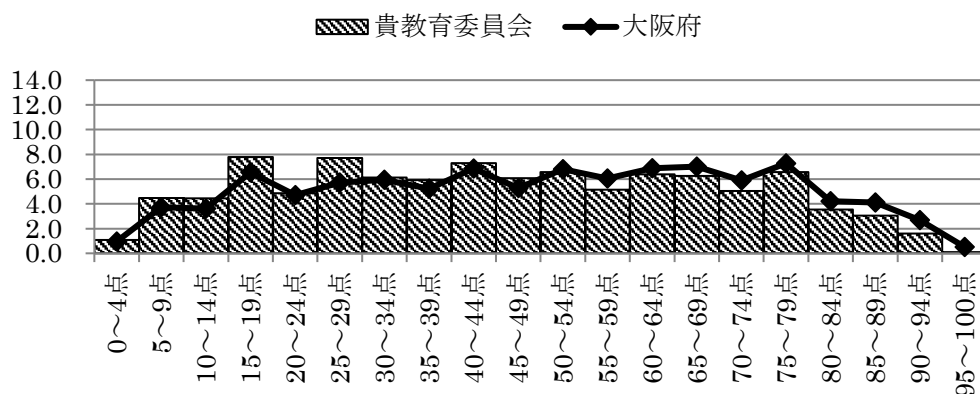
第2学年 数学

■平均得点

45.7 点（東大阪市）

49.4 点（大阪府）

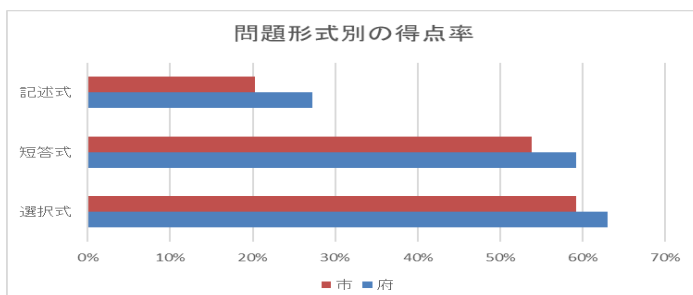
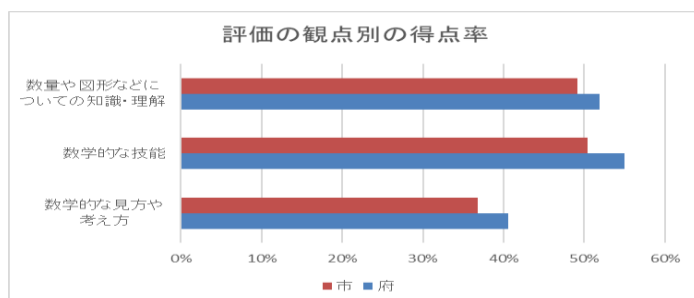
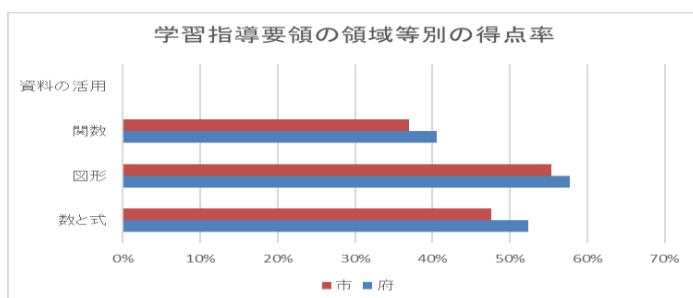
■得点別分布の割合



・府の分布、市の分布ともに全体的に横に平らで得点別分布にバラつきがある。

・府の分布と比較して、15点～19点、25点～29点の生徒の割合が多い。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率



・学習指導要領の領域等別の得点率では、関数の領域の得点率が低く、問題形式別の得点率では、特に記述式の問題の得点率が低い。

*今年度はコロナウイルス感染症により、出題範囲の減少もあり、資料の活用についての領域の問題は出題されなかった。

■特徴的な傾向と対策

- ・学習指導要領の領域等の「図形」において、同位角のの大きさを表す値を選ぶ問題では、大阪府の正答率を上回り、（【市】39.4%【府】34.6%）数量や図形などについての知識・理解の観点から、同位角の意味を理解している割合が高いことが分かる。
- ・学習指導要領の領域等の「関数」において、一次関数のグラフから x に対応する y の値の変域を求める問題の正答率が大阪府より大きく下回っている。（【市】36.4%【府】46.9%）一次関数の式やグラフから x の変域に対応する y の変域を求めることができるような数学的な技能を身につける必要がある。学習指導に当たっては、具体的な事象における2つの数量の変化や対応をグラフから読み取る問題から、一次関数のグラフの特徴について理解することができるよう、ICT機器の積極的な活用が求められる。

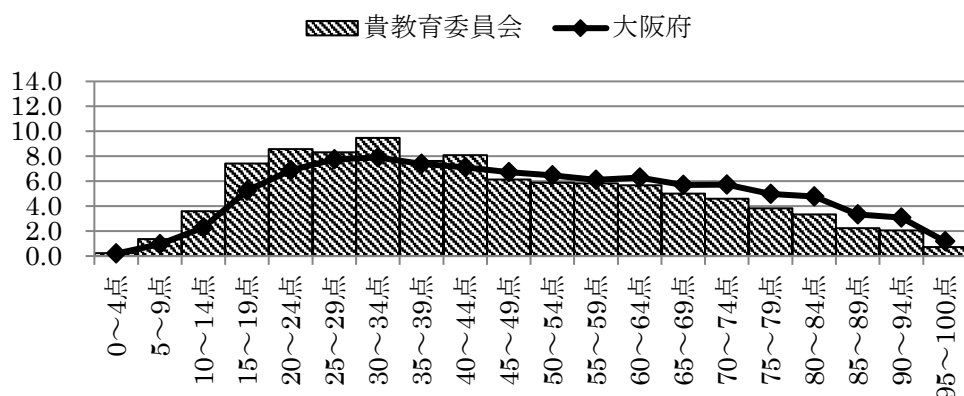
第2学年 理科

■平均得点

44.9 点 (東大阪市)

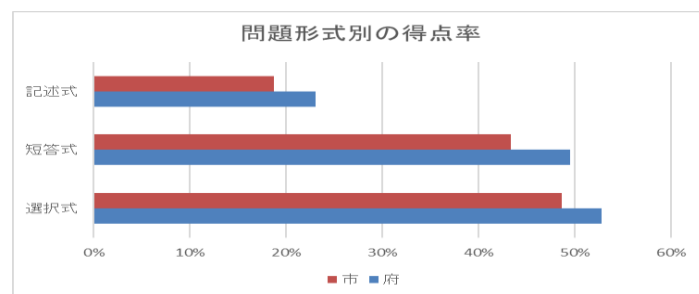
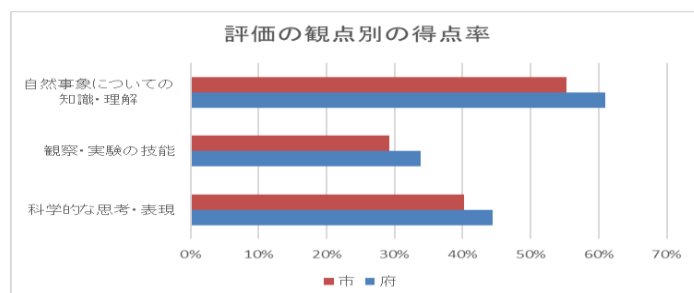
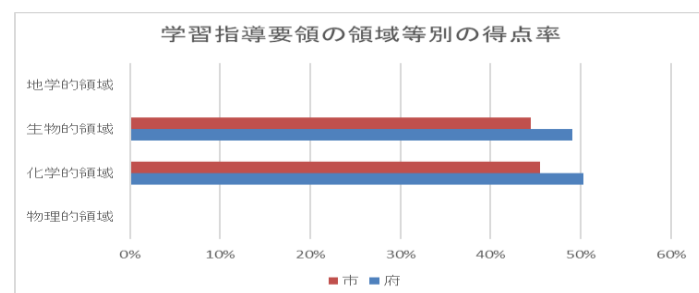
49.5 点 (大阪府)

■得点別分布の割合



- ・30点～34点をピークとするやや左寄りの山型となっている。
- ・大阪府の分布と比較すると、65点以上の分布が少なく、15～44点までの分布が多くなっている。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率



- ・評価の観点別の得点率では観察・実験の技能についての得点率が低い。
- ・問題形式別の得点率では、記述式の問題についての得点率が低い。

*今年度はコロナウイルス感染症により、出題範囲の減少もあり、地学的領域と物理的領域の問題は出題されなかった。

■特徴的な傾向と対策

- ・全体を通して、記述式の設問の無回答率が高い。また、知識理解を問う設問では、練習問題等で出題される頻度があまり高くないが、暗記ではなく、言葉の意味を理解していると答えられるものの無回答率も高い。さらに、計算問題やグラフの読み取りから考える問題においても無回答率は高く、正答率も低い。
- ・だ液のはたらきによってデンプンがなくなったことや麦芽糖などができたことを証明するために必要な試験管を選ぶ問題では、それぞれの正答率が48.5%（大阪府52.9%）、52.9%（大阪府58.6%）と課題が見られる。日々の授業において、対照実験について理解し、必要な条件について考える場面を効果的に設定していくことや、生徒どうしの発話を促していくことが大切である。学習指導に当たっては、これらの課題に対し、基礎的な知識の習得だけではなく、自然現象とのつながりをとらえながら、グラフで表されていることの意味や、何を調べるためにこの実験をしているのかなど、科学的な見方・考え方を働かせることのできる場面を授業で多くつくる必要がある。

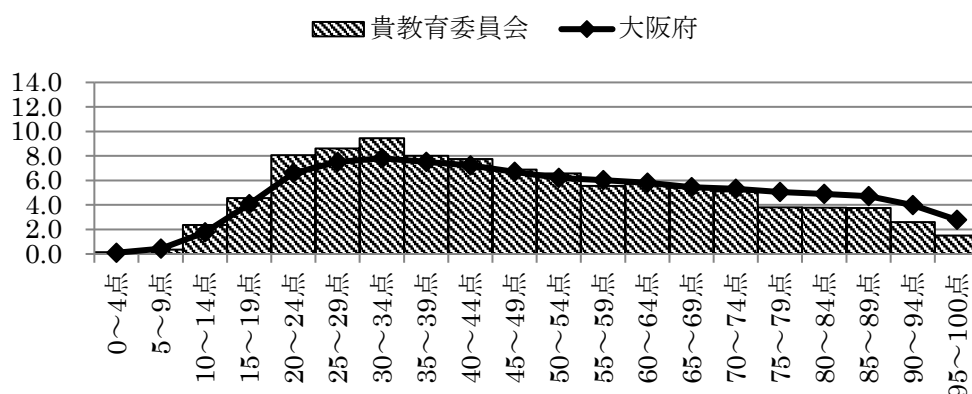
第2学年 英語

■平均得点

48.3 点 (東大阪市)

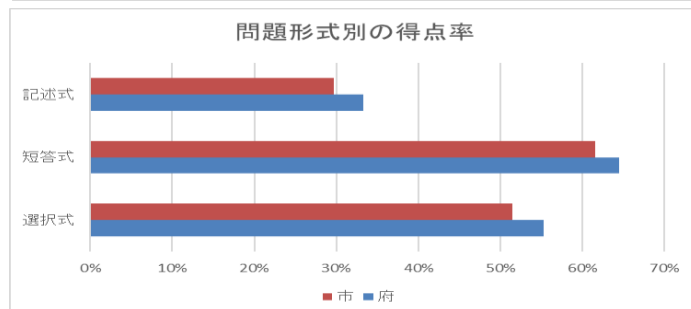
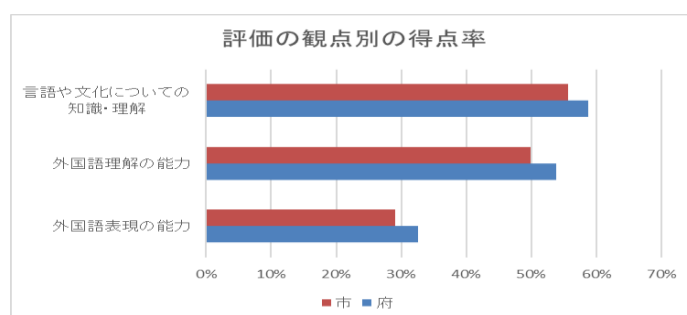
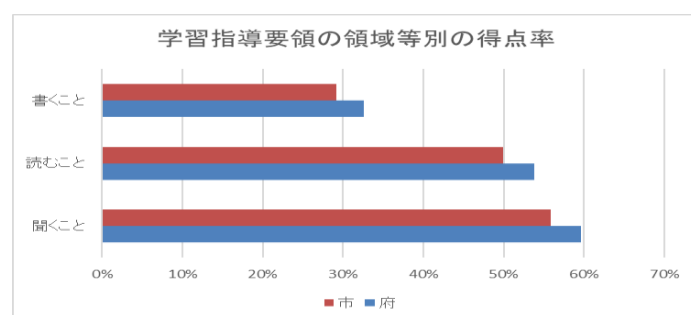
52.0 点 (大阪府)

■得点別分布の割合



- ・ 30～34 点をピークとする、左寄りの山型となっている。
- ・大阪府の分布と比較して、75 点以上の生徒の分布が少なくなっている。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率



- ・評価の観点別の得点率では、外国語表現の能力の得点率が低く、課題は大きい。
- ・学習指導要領の領域等別の得点率は、書くことの領域において正答率が低くなっている。

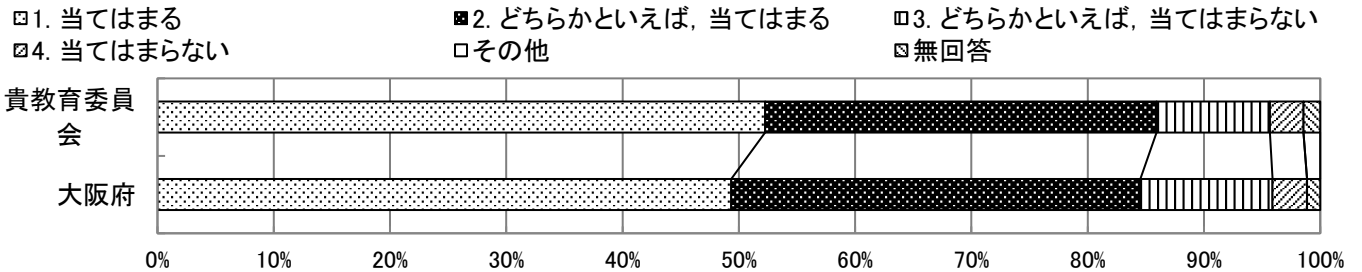
■特徴的な傾向と対策

- ・大問7の会話文を読み、会話の続きとして適切な英語を3語で答える設問において、大問7を通して正答率が大阪府と比較して低い。特に、(2)の正答率の開きが大きく、大阪府との差は8.8%であった（【市】25.2%【府】34.0%）。基本的な英文を確実に習得し、会話の中で正しく使うことができる力を育成しなければならない。学習指導に当たっては、疑問文に対する答え方や、自分の考えを簡潔に伝える表現を、授業中のスピーキング活動で育成していかなければならない。
- ・大問1の会話文を聞いて、会話の続きとして正しい英文を選択する設問において、正答率の開きが二番目に大きく、大阪府との差は7.1%であった。（【市】48.1%【府】55.2%）。学習指導に当たっては、情報を正しく聞き取るために、授業の中で多くの英語の音声に触れ、聞き取った内容について要点を理解し、返答できる力をつけなければならない。また、コミュニケーションを行う場面、状況に応じて、自身の立場で表現できる機会を増やすなどして、書く力、話す力の育成につなげていかなければならない。

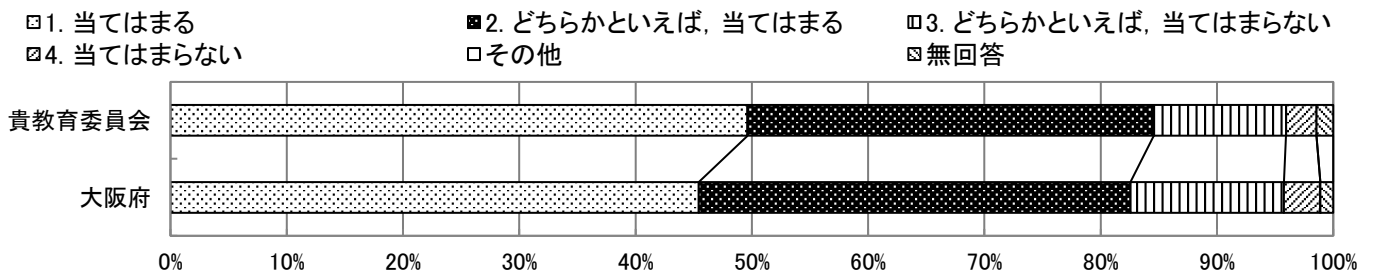
アンケート結果

■中学校1年生

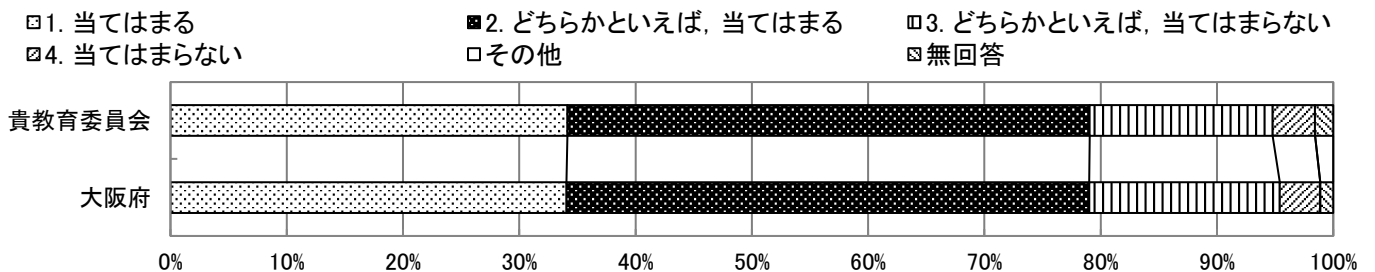
授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。



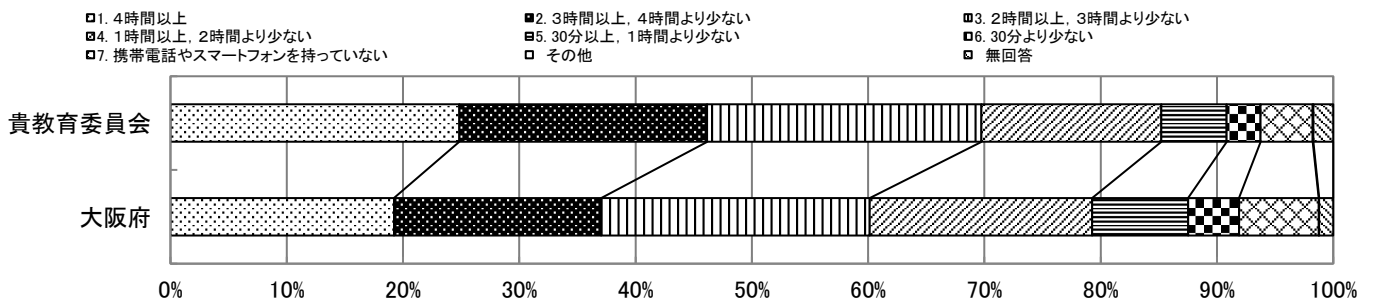
授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。



授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。

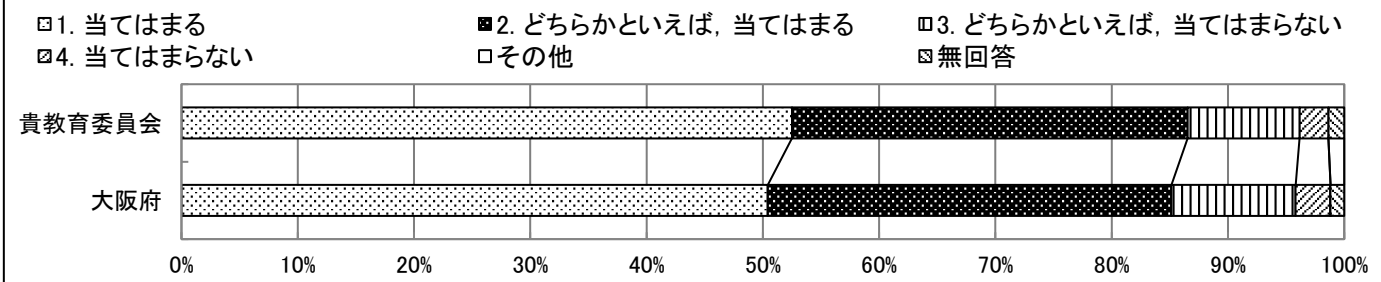


普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。

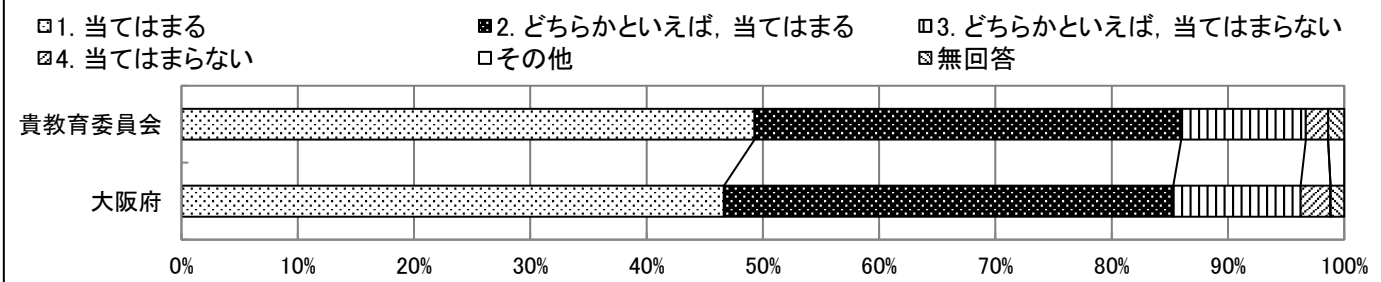


■中学校2年生

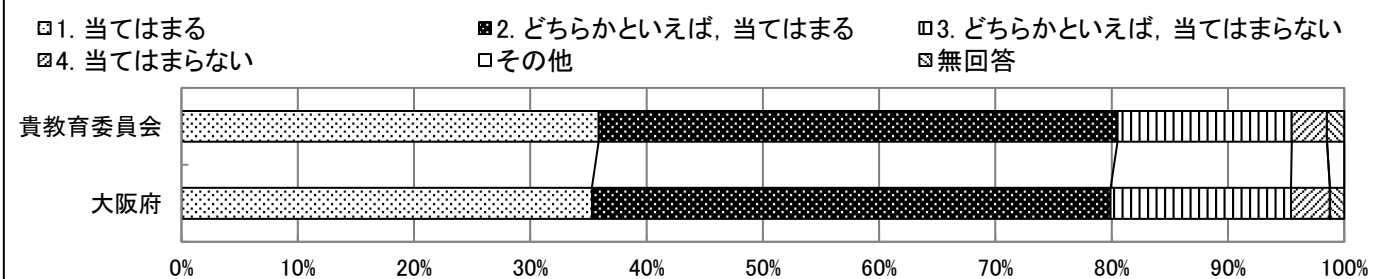
授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。



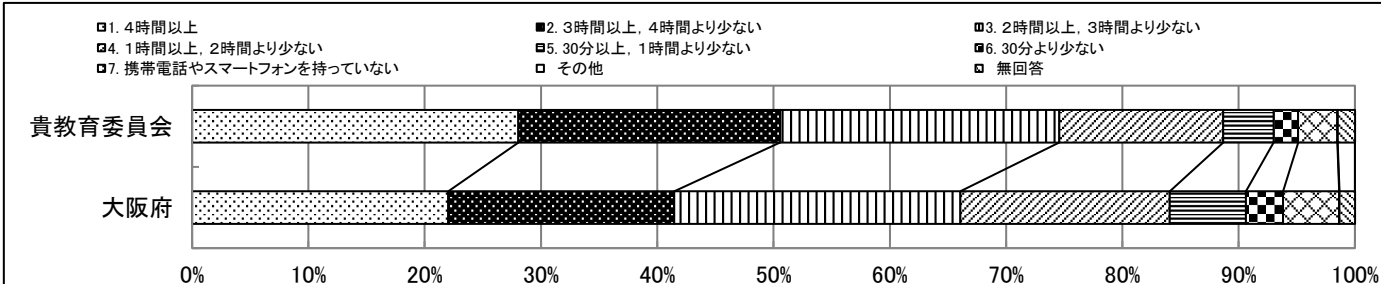
授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。



授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。



普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。



■特徴的な傾向と対策

「授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。」「授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。」「授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。」は、大阪府に比べて肯定的回答率が高い。携帯電話やスマートフォンの一日の使用時間は府と比べて高いことから、ICT機器への親和性はあると考えられる。今後は、GIGA スクール構想による、一人一台のタブレット端末など、ICT 機器をより学習で活用することを促していきたい。